小千谷市観光／共創・MaaSプロジェクト

応募様式A

小千谷市観光／共創・MaaSプラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	小千谷観光協会
事業実施地域	新潟県小千谷市
共創の類型	他分野共創
他分野共創の類型	観光・まちづくり
共創パートナー	小千谷ハイヤー協会、（一財）小千谷市産業開発センター、東山地区振興協議会
運行形態	①実証事業として運行する交通モード（オンデマンドタクシー、レンタサイクル）、 ②一般乗用旅客自動車運送事業者
運行主体	小千谷ハイヤー協会、小千谷観光協会（レンタサイクル）

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

地域交通の現状・課題　　（小千谷市公共交通計画より）

利用者の減少、高齢者利用環境改善、観光分野連携、広域交通網の維持

スマートフォンの普及などあらたな交通サービスによる効率的運用

路線バス乗降者数平成29年度435,152人→令和4年度380,847人

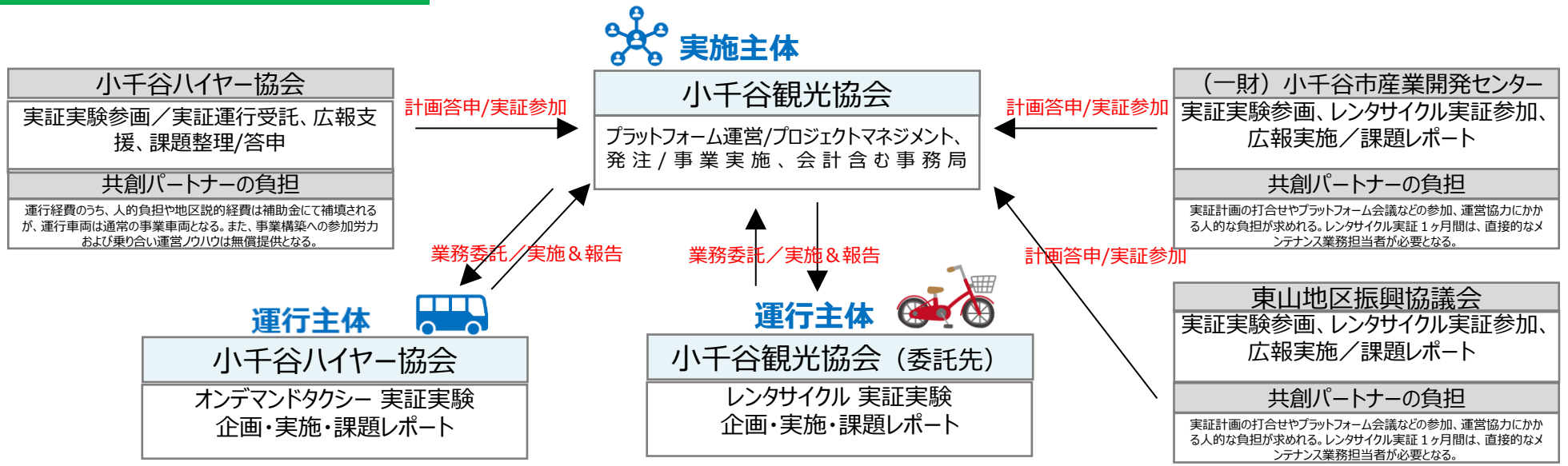
地域公共交通計画への位置づけ（位置づけ予定を含む）	無	運輸局・運輸支局への事前相談	北陸信越運輸局交通政策部交通政策課
令和５年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無	無		

小千谷市観光／共創・MaaSプロジェクト

応募様式A

小千谷市観光／共創・MaaSプラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

（事業の概要）

観光における２次/３次交通としてオンデマンドタクシーとレンタサイクルの運行企画/実証/課題抽出を行う。
① レンタサイクルを１ヶ月間、JR小千谷駅周辺、観光総合施設サンプラザ、東山地域の３ヶ所に配置し、移動データ（GPS）収集及びWEBアンケートを実施し利用目的（観光、通勤、通学など）、移動経路、採算性などの検証を行う。②上記３地域は、市内中心部、山間地郷村で、駅がその中間に位置しており、オンデマンドタクシーの配車エリアとし、土日の観光客利用と住民利用の両方に対応した実証実験を行う。（前日まで予約と当日オンデマンド検証）

（地域の関係者との連携・協働）

①地域観光の中心的な（一財）小千谷市産業開発センター（サンプラザ）が参画することで、拠点からの２次３次交通の実証実験が可能となった。②東山地域振興協議会との連携により、中心市街地と山間地間の効果的な実証実験が行える。地域公共交通の観光客による利用者増加効果の検証が可能となることは、新たな再編の方法の検証である。

（地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性）

路線バス、コミュニティバス、乗り合いタクシーの確保維持が課題であるが、オンデマンドタクシーやレンタサイクルによる補完や代替が効率化/サービス向上となれば、大きな貢献になる。

事業実施手順・スケジュール

1．実証プロジェクト立上げ　（事業主体/代表小千谷観光協会：から徴集、定期開催通知）
・共創プラットフォーム全体会議にて、本事業概要及び参画/参加主体の実施範囲/責任を確認する　・プロジェクト推進の為の外部委託先/内容について全体共有をはかり、実施体制を強化する　・代表とプロジェクト実施委託先にて実施計画及び管理方針を策定し、パートナー間合意を図る
2．実施計画策定（２分野別に共創パートナー、代表、プロジェクト実施委託先で作成）
・オンデマンドタクシー：小千谷ハイヤー協会、レンタサイクル：サンプラザ、東山地区振興協議会
3．実証実験／プロジェクト管理
・上記２記載の共創パートナーと代表＝運行主体とプロジェクト実施委託先にて推進する
4．実証データ収集
・実証実験進捗に合わせ、運営課題及び利用データを収集/整理する
5．課題整理／分析／レポート作成
・代表/委託先に、交通系コンサルを加えて、実証実験結果の分析、プラットフォームにて検討する
・最終報告書作成（検証結果と今後の実装にむけた課題明示）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①小千谷観光協会			申請		共創会議/計画・実施/プロジェクトマネジメント/実証分析・清算・報告							
運行主体（①②）							実証運行/タクシー・レンタサイクル					
②小千谷ハイヤー協会					共創会議　・MaaS計画　・実施/課題抽出　・実証報告							
（一財）小千谷市産業開発センター					共創会議　・MaaS計画　・実施/課題抽出　・実証報告							
東山地区振興協議会					共創会議　・MaaS計画　・実施/課題抽出　・実証報告							

小千谷市観光／共創・MaaSプロジェクト

応募様式A

小千谷市観光／共創・MaaSプラットフォーム

取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

1．オンデマンドタクシーによる移動手段の多様化により、地域住民の利便性向上、活性化が期待される
2．レンタサイクルの利用目的の検証は、地域内交通計画への有効なデータ提供となると考える
3．交通×観光連携にとどまらず、他分野連携の誘発に道を開くと考える

（地域全体に及ぶと想定される効果）

観光客の受入れが、地域活性化や公共交通維持に有効な施策となれば、さらなる施策開発となる可能性がある。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上		貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備		通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

本実証実験では、現状運行されている乗り合いタクシー事業者による実証実験であり、観光連携拡大は、継続性には効果がある。『小千谷市地域公共交通計画』では、本年度より AIデマンド交通の検討が行われており、本実証データが活用される。レンタサイクルの展開は、民間レベルでの展開も想定され、適正規模であれば民間事業としての導入もありえる。いづれにしても、現段階では、次年度以降の予算措置は決まっていない。

資金面	**実施主体　小千谷観光協会よる資金調達予定**
人材面（運転手の確保）	実施運行主体で確保済み